

江井島の漁業

江井ヶ嶋 漁業協同組合の生立ち

兵庫県明石郡郡役所時代（明治40年代）より旧大久保村地区東谷八木川より西魚住地区までの漁業者で屏風漁業組合として設立。

昭和15年末、魚販売所として事務所設立（橘福市さん方を借地として）

昭和24年、屏風浦漁業協同組合として現在地に出来る。

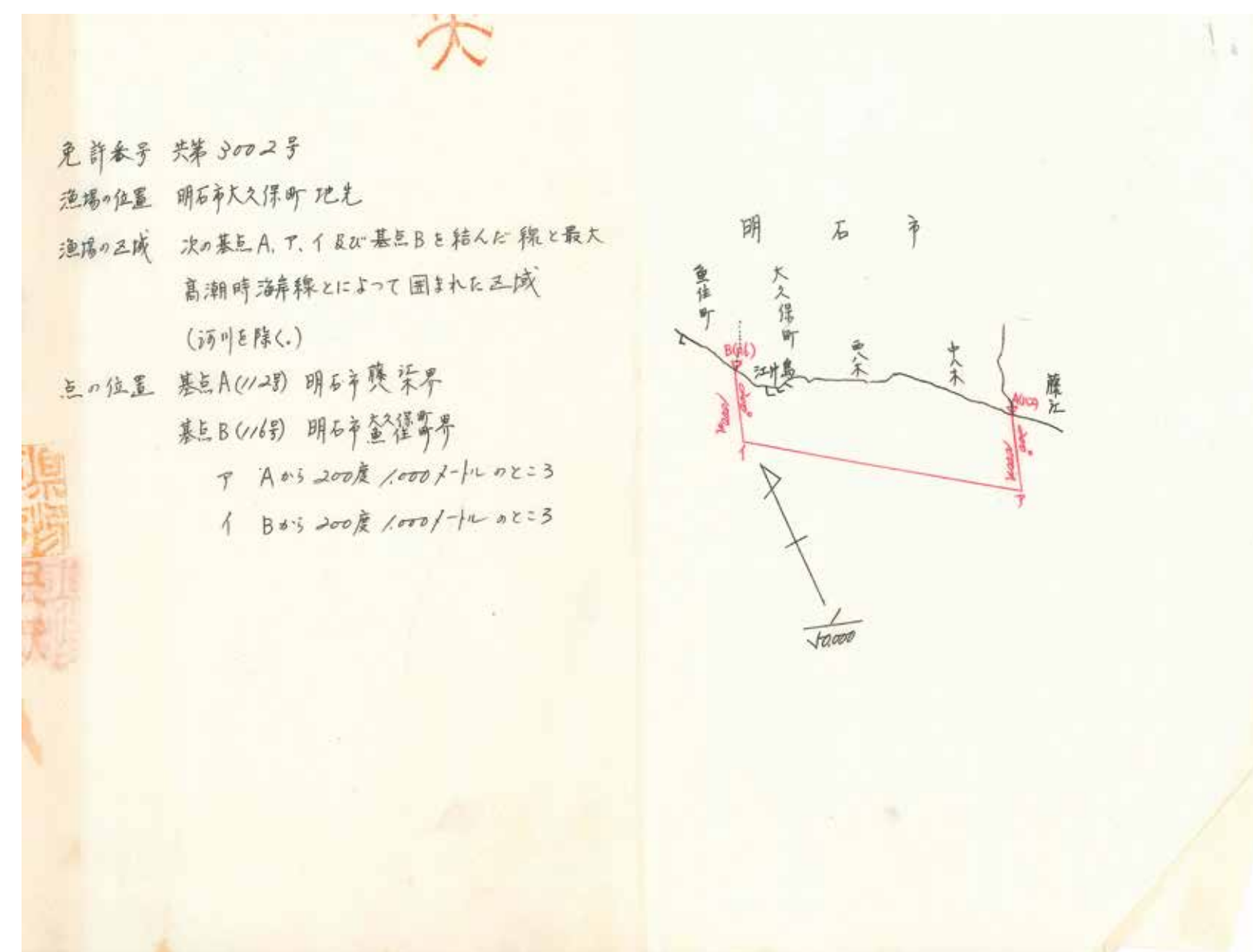
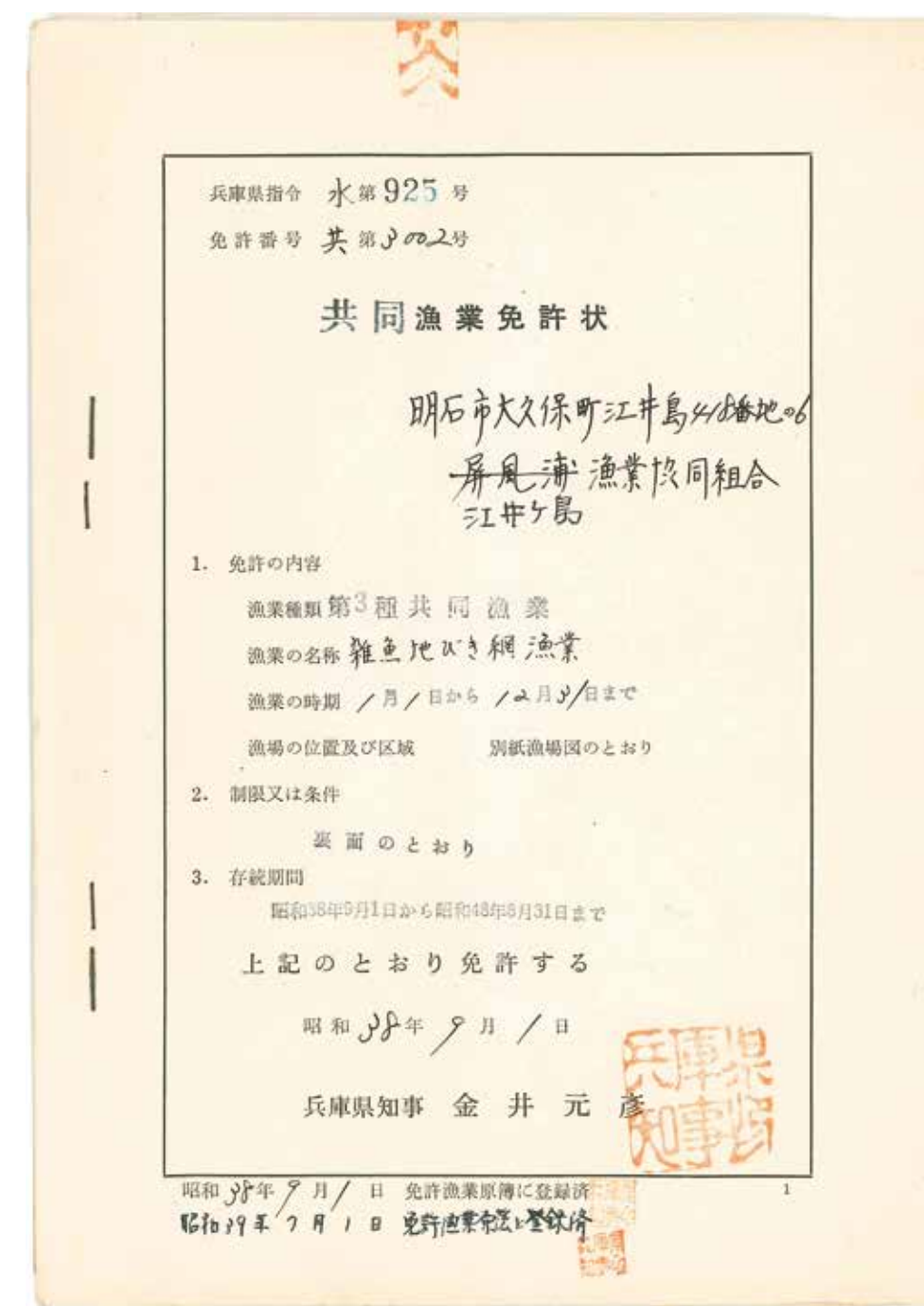
明石市及び明石史誌、林崎漁業組合参考にせり。

明治終期40年代

組合長 橘太三郎
ト部兵吉
阪口寛市
阪本正卓
橋本三次
橘 太三
橘 輝幸



屏風浦漁業協同組合設立時



附記

漁業の歴史は旧く、半農半漁にて魚別にすると地形に恵まれ水深浅く、潮流が速く、貝類多く、エビ、カニ類も多くて年中魚類が多くて特に蛸、マダコ、イイタコ、テナガタコが多く、タコつぼ漁が発達した様なり。

昭和初期大正時代

イワシ、イカナゴ多く漁があり。鯖づり、ハマチ等も瀬戸内で明石の瀬戸をひかへ多くの漁があったので、阪神の消費地をひかへ漁業も盛んになった様なり。

海苔漁業

終戦時、明石市役所水産課に旧朝鮮総督府におられた長田さんのすすめにより、明石各組合に試験網が配布されたが初年度は成功せず。

昭和25・6年に始めて海苔が取れた古定張なり。その後、張り方を色々研究したが昭和42年始めて鋼管を明石四ヶ浦で漁場に打ち込んで半不働張りに成功して現在に至りわれわれの主力漁業となる。

※原文は縦長の文章であり、句読点等は読みやすいように修正を加えた。



昭和42年(1967)8月30日 新聞掲載



昭和58年(1983)7月2日 新聞掲載



昭和56年(1981)2月26日 新聞掲載



昭和40年代頃の漁港



初期のノリ網は竹を組み立てて



西江井から東江井海岸



赤根川の河口



海水浴場で賑わっていた海岸

昔の海岸の様子